



<連載⑧>

客船の本作り苦労話



大阪府立大学船舶工学科講師

池田 良穂

表題を、本の「執筆」とせず「作り」としたのは訳がある。というのは、未だ筆者は客船の本を出版社からの依頼で執筆したことがなく、すべて自費出版の形で世に送っているためである。ただ、執筆するだけでなく、構成、割り付け、校正、印刷発注、宣伝、予約受け付け、発送という仕事を全部自分でやって、これまで5冊の客船に関する本を作った。その思い出話を今回はしてみたい。

「日本の旅客船」(昭和51年10月発行)

一冊目の本は特に思い出深い。まだ、学生だった頃、船の仲間と日本で活躍する内航客船を一冊の本にまとめておこうという話がおこり、当初はコピーを利用した小部数の資料作成を考えていたが、途中から船好きの印刷屋さんの協力を得て、本格的な出版物として完成させた。当時の日本各地で活躍していた旅客船450隻あまりを写真と要目、そして簡単な解説を付して紹介した本で、海外からは今でもたまたま注文が舞い込む。残念ながら、もう在庫はない。すでに、出版以来10年をすぎ、沢山の人々から改定版の発行の要望があるが、なかなか現在の状況では余力がなく、改定版の出版は実現しそうもない。筆者より一世代若い船ファンが最近、この改定版に着手しようという

動きをみせており、大いに期待している次第である。ハードカバーのこの本を手にする時、今でもこの本を仲間と編集した頃の事をなつかしく思い出す。

「さようならにっぽん丸」(昭和52年5月発行)

一冊目の「日本の旅客船」が完成した直後に、長く南米航路の移民船として活躍した大阪商船三井船舶の「にっぽん丸」(元あるぜんちな丸)が、引退し、台湾で解体されたことにショックを受け、この船の歴史を一冊の本にまとめることにした。これが二冊目の自費出版本である。印刷は、やはり船ファンの印刷屋さんをお願いすることとし、さっそく編集を始めた。商船三井の名物船長や関係者に執筆を依頼し、筆者は、商船三井客船の神野氏から同船の航海日誌を借り出し、東京のホテルで泊まり込んで、徹夜で同船の就航以来の足取りを記録した。こうして、編集、発行したこの本は、朝日新聞で紹介されることとなり、同船で南米に渡った人々や、同船に乗り組んだ人々からの注文が殺到し、数カ月で作成した500冊がなくなった。筆者の自費出版本の中では、唯一あっという間に売り切れた本で、毎回本を自費出版するたびに、「さようならにっぽん丸」くらい売れてすぐに赤字から脱出できるように、と祈るのだが、願いがかなえられたためしはない。

「小型客船28隻組 — 戦後内航客船復興の
先駆け —」 (昭和53年10月発行)

三冊目の本は、終線直後の昭和22年から23年に、連合軍の許可を得て、国内物資輸送の円滑化のために建造された28隻の内航客船の活躍にスポットをあてたものであった。東海汽船のあけぼの丸や椿丸(元第一照国丸)、関西汽船の明石丸、あけぼの丸、黒潮丸等のなつかしい船たちの歴史を綴ったもので、筆者にとっては3年近い年月をかけて調査したものであった。今では、これらの船はすべて引退してしまっている。地味な本だけに、500冊の本がすべて売れるまでに5年間もかかった。

「世界の大型フェリー」
(昭和53年10月発行)

大型カーフェリーには昔から興味を持っていた。実家が北海道にあるせいもあって、ほとんどの長距離カーフェリーには乗船していることもあり、世界のカーフェリーと日本のカーフェリーとの違いには大いに興味があった。そこで、世界で活躍する大型カーフェリーを写真、図面とともに紹介する本を作ることとした。1978年当時、世界で最大のカーフェリーは、ガスタービン船として有名なフィンジェット(23,000総トン)であり、9,000総トン以上のカーフェリーが全部で52隻あった。これらを、網羅して紹介したことで、特に日本のカーフェリーの情報が不足している海外の船ファンにはよるこばれた。とはいっても700冊の本を捌くにはかなりの年月がかかり、発行以来9年たった今でも筆者の書斎の片隅に在庫本が積まれている。

この本の改定版として、現在三菱重工に勤める竹田氏と共に5000総トン以上のカーフェリーを網羅した本を編集中で、今年末には発行の予定である。

「世界の客船」 (昭和54年3月発行)

船の趣味の分野の大先輩である山田 生氏と一緒に仕事をさせてもらった最初の一冊ということで思い出深い本である。1981年当時世界で活躍していた5000総トン以上のクルーズ客船、定期客船、順礼客船を写真で紹介した。その当時、客船をこれだけまとめた本がなかったこともあり、好評であった。編集上の苦労としては、編集途中で売船されたり、解体されたり、沈んだりして、変更箇所が次々にでてくるのに頭を悩ました。また、写真のみつからない船については、海外の船ファンの協力を得たり、船会社に直接お願いしたりしたが、なかなか入手できないものもあった。

「世界の客船'85」 (昭和60年6月発行)

「世界の客船」の改定版として1985年に発行した。編集に丸2年ほど費やし、特に各船の歴史と現状の解説には力を入れたので、「客船の百科事典」として自負できるだけの内容になった。

「世界の客船」が海外の船ファンにも好評であったことから、解説も和文と英文の併記としたのも1つの特徴となっている。「世界の客船」では、1ページに3隻づつ紹介したが、1ページ1船として余裕のある構成にした。表紙をカラーにしたのは、筆者の自費出版では初めての試みであったが、それなりに好評であったが、これがいつまでも赤字を引っ張る原因ともなった。この本のはしがきに、今後2年おきに改訂版を発行したいと記しているが、まだ実現していない。このごろ、海外から「次の本はまだか」という手紙が時々舞い込むようになったので、そろそろ準備をして来年には改訂版を発行したいと思っている。

最後に

とにかく、本作りは大変な仕事である。この、「公団船」にしても、一冊一冊定期的に仕上げるまでの苦労は大変なものと思う。筆者も、自費出

版本を一冊完成させると、しばらく「本を作ろう」などという気持ちにはなれない。半年程たつて、その苦方がなつかしい思い出に変わりつつあるところになって、やっと「次の本を考えてみようか」といった気分になるのが実情である。せめて、2年に一冊くらい商業ベースに乗らないような本を船ファンの手元に送り届けたい、というのが筆者のささやかな願いである。

現在、「世界の大型フェリー」と「世界の客船'85」以外には在庫がありません。ご希望の場合は、直接筆者までお申し込み下さい(〒592 堺市向ヶ丘町 1-791-420, Tel. 0722-70-0612)。



F.O. SLUDGE PULVERIZER

OMEGA FIRE

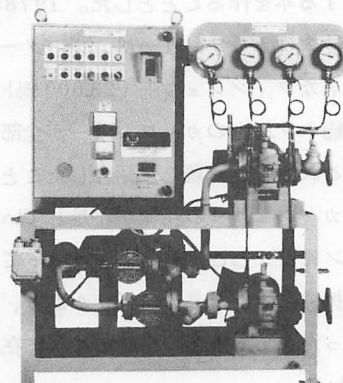
オメガファイヤー
粗悪重油対策機

A-Cブレンダー

エコミブレンダー
ECONOMY BLENDER

優 ●特許申請中

管工ネと機関室船内作業
軽敏に威力!!



晃産業株式会社
HIKARI SANGYO CO., LTD.

お問い合わせ 本社:愛媛県今治市山路409番地 〒794 TEL(0898)23-6660代 FAX(0898)23-6698 TELEX5845211 HIKARI J
●東京営業所/TEL(03)278-1461 ●大阪営業所/TEL(06)941-2787 ●広島営業所/TEL(082)263-7741 ●長崎営業所/TEL(0958)24-7731